

香川県教育施策推進協議会（第2回会議）における主な意見

1 開催日時等

- (1) 開催日時 令和7年10月14日（火） 15:00～17:05
 (2) 場 所 香川県庁本館21階特別会議室

2 議題

香川県教育基本計画について

- (1) 現行の香川県教育基本計画の変更に係る素案（案）について
 (2) 香川県教育委員会の取組み等について
 (3) 次期香川県教育基本計画への子どもの意見の反映について
 (4) 今後のスケジュール

3 出席委員

会 長	平 篤志	香川大学教育学部長
副会長	吉田 洋子	香川県商工会議所女性会連合会 会長
委 員	青井 静	香川県社会教育委員・家庭教育推進専門員 香川県子ども読書活動推進会議委員
	大林 典子	スクールカウンセラー・臨床心理士・公認心理師
	岡田有里加	香川県ユニセフ協会事務局長
	岡本 幸江	日本放送協会高松放送局長
	工藤 りか	株式会社四国総合研究所 電子アグリ技術部 副部長 (研究主幹) 兼アグリバイオグループ グループ長
	小柳 和代	香川県市町教育委員会連絡協議会教育長部会長 (高松市教育委員会教育長)
	西藤 翼	株式会社 Soilook 代表取締役
	堺 るり子	香川県立高松支援学校 学校評議員 (元香川県立香川丸亀養護学校校長)
	杉本 勝利	香川県高等学校PTA連合会 会長
	田中 敬子	観音寺市立豊浜小学校 学校運営協議会委員
	中谷 清	香川県町教育長会会長 (宇多津町教育委員会教育長)
	松浦 由紀	株式会社四国新聞社編集局地方部長
	吉田 和恵	香川県PTA連絡協議会 母親代表委員長

4 主な意見等

(1) 現行の香川県教育基本計画の変更に係る素案(案)について

- 計画期間が5年間から6年に延長されるということだが、数値目標が変わるもの、上方修正されるものとそのまま据え置かれるもの。必ずしも100%の目標ばかりでもないように見受けられるが、どのように考えたらいいか。

(2) 香川県教育委員会の取組み等について

- 重点項目5の3「学びのセーフティネットの構築」の指標は“経済的な理由で修学が困難な生徒等に対する奨学金の貸与”であり、目標は7年度、8年度とも“着実な実施”である。日本語の教育のバックアップや別の手助けが必要な生徒の数が増えており、そこに対応できる人材の育成が課題であるし、急がれるところだと思うが、令和8年度の目標もこの“着実な実施”でいいのか。次の計画を立てるときに、もう少し具体的に検討するのか。
- 点検評価報告書の中で、A評価もあれば、D評価もあるが、計画期間が1年延びたことをいい機会と捉え、学校現場はそれぞれの項目について、取組みが十分できたかどうかを一旦評価、振り返る必要があると感じている。不十分なところはもう1年かけて頑張っ、盛り返していこう。できているところは頑張ったということの評価する機会があればいいと思う。
- 「先生は、自分の良い所を知っている」と答えた子どもたちは自己肯定感が高い、と結果がでた数年間は、“楽しい学校”に力点をおいたと校長先生からお話があった。その取組みの結果、子どもたちの学力は、依然国や県の平均より高いのである。喜んで学校に行き、安定・安心して生活する子どもたちに色々な面での自信が備わって来るだろうと期待したり、喜んだりしている。先生方の取組みに大きな感謝のこの頃である。
- 中学校での個別の指導計画の作成率が全国的にみてもかなり低く、これまでいろいろな対応策を特別支援教育課でも考えていただき、実行しているわけだが、なぜここまで長きにわたって作成ができないのか、その分析をどのようにされているのか。
- 郷土に誇りを持つ教育の推進は、シビックプライドの醸成にも繋がる非常に重要な施策だと思う。例えば、埋蔵文化財センターなどの見学をどんなふうに学校に依頼し、県教育委員会は推進のためにどんな働きかけをしているのか。また、見学を授業の行程に入れるにしても、負担との兼ね合いがあるので、バス代の補助を検討したり、各市町や各地域には伝統文化があって、コミュニティが中心になり、郷土愛の育成をやっていると思うので、どんな形で支援をしていただければ非常にありがたい。
- 郷土に誇りを持つ教育において歴史を学ぶことは非常に大切だと思う。それ以外にも香川が誇れる自然環境や古くから培われてきた技術や産業などがあるので、広い分野から教育の中に取り入れてはどうか。
- 学校現場に、臨時的に入ってくる方や学校現場に長く携わっていなかった方が入ってきて、子どもたちに接する機会が最近増えており、その方々が戸惑われている姿を散見する。学校の先生が張り付いて教えると、実質マイナスになってしまい、業務が滞ってしまう。入ってくる方にとっても、受け入れる学校にとっても、いい形でスムーズに現場に入ってもらえる仕組み、後押しを考えていただけたらと思う。

(3) 子どもの意見の反映について

- 子どもから意見を集めても、それが必ずしも反映されるわけではないと思っているが、“主体的に参加するきっかけとする”というところがやわらかな表現になっていると思う。こういったゴールイメージで、基本計画に反映されることをどの程度考えているのか。
- アンケートに走りがちだが、小学校、中学校は夏休みにリーダー研修を学校ごと、中学校区ごとにやると思うので、その議題に取り上げていただき、取りまとめていただいて、意見を上げていただくことも可能だと思う。
- 意見を言えるのは中高生だけと考えるのは大人の考え。子どもの意見を聴き取ることで、一番大切にして欲しいのは、周りの大人が先入観を持たないということ。小さい子どもに意見が言えるわけがないという先入観を持たないで、すべての子どもに公平に意見を聴けるように。幼児には大人の言葉で聴くのではなく、子どもの遊びの中で聴き取るという手法を使ったり、広く公平に意見を集めていただければと思う。周りの大人がバイアスを持った状態で聴いてはいけないと思う。
- せっかく作るなら他県に誇れるもの、香川県らしい、他県の参考になる計画を作ったらいと思う。子どもの意見がすごく反映されて、そこに大人の抑制も効かせながら、他県を引っ張っていきけるような「教育県香川」の新しい像が示せるようなものになったらいと思う。子どもの意見をどうやって反映するかと聞かれても、すぐに答えが出せない。どんな質問をするか、この場だけではすごく難しい。
- 一人一人の子どもの意見を聴くというのは本当に大事だと思う。ただ、自分たちの意見が県のレベルで通ると考えている子どもは今の時点ではないのではないかなと思う。これには準備がいると思っている、子どもたち一人一人に下ろしていくのは結構な時間がかかると思う。